



ことばのひろば シリーズ

ことばって おもしろい

ことばが つながる うたになる

ことばが たくさん あつまれば

おはなし うまれる よみたくなる

ここは ことばのひろばだよ



はやくちことばや語呂合わせ、かぞえうたや回文（どちらから読んでも同じことば）などの「ことばあそび」。

このシリーズでは、小さな頃から自然に、ことばと音に親んでもらいたいと、ハンディ・サイズの絵本を作りました。

毎日のくらしの中で、同じ音ではじまることばを探しをしたり、しりとりをしたりして、いっしょに遊ぶひとときが、子どもの心と頭をやわらかにします。

ゆたかな「ことば体験」を積み重ね、いきいきと自分を表現出来る子へとみちびく、ファースト・ブックとして、おすすめです。

<本シリーズの特徴>

- 1: シンプルな文章と絵で、初めて自分で絵本を読む子どもにぴったりのサイズ。
- 2: 音からひろがるイメージ、語呂合わせや早口ことば、回文など、ことば遊びの楽しさいっぱい!
- 3: 「ことばって、おもしろいな。たのしいな」という感覚をそだて、うたや物語の世界へ入っていく、最初の一步となる絵本。
- 4: 人気の絵本作家やイラストレーター、児童文学作家や詩人によるユーモアあふれる作品ばかり。

わたしたちがおすすめします!

本シリーズで編集協力していただいたおふたりにお話をうかがいました。

ことばのリズムやそこから紡ぎだされるイメージの展開を大切に、と心がけて創作にとりくんできました。また、子育てや地域の文庫活動を通して、絵本がもつ「ことばの力」が子どもの感性を育ててゆく姿を目の当たりにし、確信したものです。

このことばのひろばシリーズは、その形もコンパクトで価格もコーヒー1杯ほど! 手にしやすいので、くり返し読みあって楽しんでいるうちに、みんな、ことばの達人になっちゃいますね。



西内ミナミさん



本多慶子さん

長年、子どもの本に関わってきて思うのですが、その原点は「ことば」だということ。上質な絵とのコラボレーションによって生み出された絵本を、家族や身近にいる園の先生など、温かな人の声で読んでもらうことにより、子どもはごく幼い時期からことばに親しみ、成長していくものなのです。

このことばのひろばシリーズは、どれも、おもわず声にだして唱えたいくなるリズムカルな展開で、おとなと子どもと一緒に楽しめますね。

西内ミナミ (にしうち みなみ)

子どもの本作家。大学在学中より児童文学の創作を始め、卒業後はコピーライターとして広告会社に勤務。65年に堀内誠一氏のすすめにより書いた絵本「ぐるんぱのようちえん」(福音館書店)がロングセラーとなる。70年よりフリーとなり創作に専念。絵本「おもいついたら そのときに!」(こぐま社)、幼年童話「こぶたのぷーぷ」(福音館書店)など作品多数。長年にわたり家庭・地域子ども文庫活動や図書館施設拡充など、子どもの読書推進にも携わっている。

本多慶子 (ほんだ けいこ)

元・福音館書店編集者。「ぐるんぱのようちえん」「わらべうた」などの「こどものとも」、「いやだいやだ」の絵本、「ピーター・ラビットの絵本」シリーズなどを編集。その後、フリーとなり多数の絵本を企画・編集した。ほかに「子どもの本 1920年代展」「クヴィエタ・パソウスカ展」「プラティスラヴァ世界絵本原画展」などの絵本原画展の図録も手がけた。現在も子どもの本の企画編集や講演活動を行い、広く子どもの本の普及に関わっている。